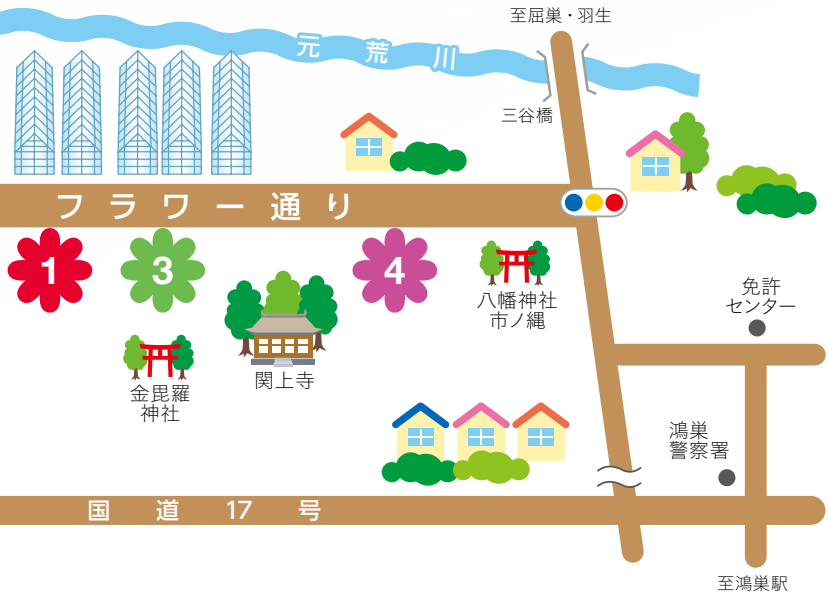
鴻巣の花の生産は昭和 23 年から始まります。寺谷地区で竹内武之助氏が、パンジーを1アールの面積に作付けしました。寺谷地区は半湿田が多く、粘土質という土質がパンジー栽培にふさわしかったのです。その後、油障子を利用した「ワラ編み床」と呼ばれる保温対策の工夫がなされ、シネラリアの生産量を増やします。花々は背負いかごを利用した「かつぎ出し」により東京に運び出されました。高度経済成長期には夏場の高温対策として高冷地で育苗する「山上げ栽培」が導入されます。そして、後に日本一の出荷量を誇るサルビア、プリムラ、マリーゴールドなどの生産品種を増やし発展を遂げました。昭和 50 年代路地花から施設園への転換期を迎えます。ビニールハウスやガラス室などの施設で、野菜や花を作る農家が多くみられるようになりました。その後、バブル景気、ガーデニングブームを経て、今では約 200 軒の花卉生産農家が存在しています。

「生産→流通→小売→消費」の全ての工程が、市内各所で活発に行われていることが「花のまちこうのす」の大きな特徴といえるでしょう。



主に生産される花の種類

花壇苗

プリムラ

マリーゴールド

サルビア

パンジー

ビオラ

カランコエ

鉢物

カーネーション

サイネリア

カランコエ

1 鴻巣フラワーセンター

東日本最大級の花市場。月、水、金曜日の午前 7 時から切花と鉢物のセリが行われています。事前の予約で見学が出来ます。

70年の花の歴史

昭和 23 年	鴻巣市寺谷地区で竹内武之助氏がパンジーを導入
昭和 26 年	「ワラ編み床」でのシネラリア生産が開始
昭和 29 年	「かつぎ出し出荷」のほか、三輪自動車による出荷開始
昭和 37 年	サルビア・マリーゴールド・マツバボタン・コリウス生産開始
昭和 39 年	パンジー生産全盛期 東京オリンピック開催
昭和 42 年	初の花市場「埼玉綜合園芸」開設
昭和 47 年	2 つ目の花市場「鴻巣園芸センター」開設
	日光戦場ヶ原での「山上げ栽培」開始
昭和 48 年	「花卉園芸組合」が鴻巣・川里地域で発足
	鴻巣市の花を「パンジー」に制定
平成 2 年	大阪花の万博にて「花のまちこうのす」を全国にアピール
平成 3 年	「川里花き連合会」発足
平成 14 年	「鴻巣フラワーセンター」開設
	「花のオアシス」開園
平成 17 年	鴻巣市花組合発足 新「鴻巣市」誕生
	NPO 法人フラワーピース発足
平成 19 年	鴻巣オープンガーデン「花の環」発足
	第1回鴻巣オープンガーデン開催
平成 20 年	荒川馬室河川敷のポピー畑が栽培面積日本一
平成 23 年	第 1 回こうのす花まつり開催
平成 28 年	「鴻巣の花を見て育てて贈ってふれあう花のある生活促進条例」制定
平成 30 年	第 8 回こうのす花まつり開催

70 年前、寺谷地区から始まった鴻巣の花生産は、近隣の道永（どうえい）地区、川面（かわづら）地区へと広がりました。そして市内東部の川里地区でも盛んになり、現在では総生産量の約半数を川里地区で占めるほどになっています。

「花卉（かき）」とは？

くさばな。花の咲く草の意味。

●花について

華の俗字。もとは、上部の「艹」（艹）2 つの草と、下部の「化」美しいの意から成り、草の花の意を表す。（形声文字）

●卉について

もとは、（艹）3 つの草を合わせて、多くの草、すべての草の意を表す。（会意文字）

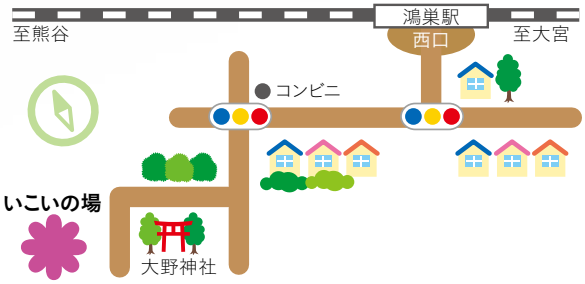
まちなかの花装飾

花を愛(め)でることによって、私たちの心も潤います。
身近にある手作りの花々に、是非触れてみて下さい。

いこいの場（みどり坂）

鴻巣市大間２丁目（大野神社裏）にある「いこいの場」はかつては物騒な荒れ地でしたが、2007（平成 19）年 10 月、地元住人らのボランティア団体の方々によって整備されました。現在は毎週土曜日の午前 10 時から、有志の方々による清掃活動が行われています。

みどり坂とは地元の人々が使う通称です。ここは近隣の住民たちのいこいの場であり、放課後などには田間宮小学校の児童たちが藤棚の下で元気に遊んでいます。毎年５月にはフリーマーケットが開催されます。



花久の里

KAKYU NO SATO

屋敷林に囲まれ、旧家の佇まいを残しながら訪れる人に安らぎと懐かしさを感じさせてくれる場所。

ひとたび長屋門をくぐると、そこには特別な時間と空間が広がります。

花・食・音楽などの文化・芸術活動を通じて、あらゆる情報を発信しています。

バラのオーナーを募集し「市民によるバラ園作り」も行っています。

Access
鴻巣駅東口→タクシーで約 15 分
鴻巣駅東口→フラワーバス（広田･共和コース）で約 25 分（花久の里下車）